

一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

(金曜日—一夜の部)

メッセージ 6

一人の新しい人の実際と実行のために必要とされる祈り

聖書：ルカ 11:1-13. エペソ 6:17-18. コロサイ 1:3, 9. 3:1-4, 15-17. 4:2, 12.

ヘブル 2:17. 4:14. 7:26. 8:1-2. 啓 5:6

I. わたしたちの祈りの支配する原則は、祈りがわたしたちを神の中へともたらずことであるべきです——ルカ 11:1-13：

- A. わたしたちの祈りがわたしたちを神の中へともたさないうちはいつも、それは間違っており、わたしたちはこのように祈り続けるべきではありません。
- B. 正しい祈りの結果は、わたしたちが自分自身を神の中に見いだすことです—— 2-4節。

II. 真実な祈りの時の経験は、わたしたちが一人の新しい人の実際に触れることができるようになります——コロサイ 1:3, 9. 4:12. ピリピ 1:20-21 前半：

- A. 真実な祈りの時、わたしたちは霊の中におり、主と一つ霊です。わたしたちはこのような時にキリストを生きています—— I コリント 6:17. ピリピ 1:20-21 前半：
 - 1. わたしたちの日常生活は、真実な祈りの時の経験と同じであるべきです。
 - 2. 祈りにおけるわたしたちの経験は、わたしたちの日ごとのクリスチャン生活の模範となるべきです。
 - 3. わたしたちは祈るとき、主との交わりの中へ入り、わたしたちが真に主と一つ霊であり、主が実際にわたしたちと一つ霊であるという事実を感じます—— I コリント 6:17。
 - 4. わたしたちは自分自身を祈る状態の中に保つなら、文化の外におり、主と一つ霊となり、彼の臨在を享受し、自然に彼を生きます。
- B. わたしたちは真実な祈りを経験するときにはいつも、自分の文化の外にいます。特に、わたしたちは自分の文化的な意見の外にいます——コロサイ 3:10-11：
 - 1. わたしたちは真実な祈りを持つほど、自分の文化的な意見の外にいる経験をますます持ちます。
 - 2. わたしたちは真実な方法で他の人と祈るとき、祈る霊の中で真に一です：
 - a. そのとき、わたしたちは一人の新しい人の実際に触れます。
 - b. そのとき、わたしたちは、新しい人がただキリストで構成されていること、この領域の中には文化の違いがないことを認識します。

III. わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。なぜなら祈りは戦い、戦闘と関係があるからです——コロサイ 4:2. エペソ 6:17-18：

- A. 神の側でサタンに敵対して戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。
- B. わたしたちは神の側に立つ者として、全宇宙がわたしたちに敵対しており、特に、わたしたちの祈りに敵対していることを見いだします——コロサイ 2:1-3：

1. わたしたちの環境の中で、ほとんどすべてが祈りに反対しています。
2. 祈りに対する妨害は、わたしたちの外側にあるだけでなく、わたしたちの内側にさえあります——マタイ 26:41。
3. 祈ることは、墮落した宇宙における潮流、すう勢に抵抗することです：
 - a. わたしたちは祈るために、わたしたちの環境の潮流に抵抗しなければなりません。
 - b. もしわたしたちが祈らないなら、下流に押し流されるでしょう。
 - c. 祈りだけが、わたしたちを潮流に抵抗させることができます。ですから、わたしたちはうまずたゆまず祈り、持続的に祈る必要があります——ルカ 18:1-8。

IV. 一人の新しい人のためにうまずたゆまず祈ることは、キリストの平安と、キリストの言葉と、キリストとの結合の中の生活と関係があります——コロサイ 3:15-17：

- A. キリストの平安、すなわちキリストご自身は、ユダヤ人と異邦人を一人の新しい人となりました。今やわたしたちはからだの生活のために、一人の新しい人の実際的な出現のために、この平安にわたしたちの心を裁定させるべきです—— 15 節。
- B. キリストが彼の頭首権を行使し、彼の豊富をわたしたちに供給する道は、彼の言葉を通してです—— 2:19. 3:16：
 1. わたしたちは閉ざすべきではなく、自分の存在を主に、また彼の言葉に開き、進んでキリストの言葉で満たされるべきです。
 2. わたしたちはキリストの言葉にわたしたちの内側で行動させ、活動させ、存在させて、わたしたちの全存在がキリストの言葉で浸潤され、浸透されるようにする必要があります。
 3. 一人の新しい人のためにキリストの言葉がわたしたちの内に豊かに住むために、わたしたちはキリストの平安に、わたしたちの心を裁定させる必要があります。
- C. キリストとの結合の中で生きることは、わたしたちが生活の中でキリストから離れないことを意味します。そうではなく、わたしたちは彼と一であり、その霊の中で行動することによって、すべての事を彼の御名の中で行ないます—— 17 節。
- D. わたしたちはキリストの平安によって支配され、キリストの言葉を住まわせ、キリストとの結合の中で生活する必要があります。

V. キリストは彼の天の務めにおいて、とりなし、供給し、神の行政を執行しています。わたしたちは、キリストの天の務めにおける活動に応答する者となる必要があります——ヘブル 2:17. 4:14. 7:26. 8:1-2. 啓 5:6. コロサイ 3:1-4. 1:9. 4:12：

- A. キリストは大祭司として、とりなしています。彼は天の奉仕者として、供給しています。彼は神の七つの目を持つ贖い主として、行政を執行し、神の定められた御旨を完成します。
- B. キリストの天の務めはわたしたちの応答を必要とします—— 3:1-4：
 1. わたしたちは地上でキリストの天の務めの反映となる必要があります。
 2. 上にあるものを求めることは、わたしたちがキリストの天の務めに呼応することを意味します—— 1 節。
 3. わたしたちは上にあるものを求めるとき、キリストの天の務めに応答し、それを反映します。

4. わたしたちがキリストと共に生きる目的は、諸召会のための彼のとりなしにおいて、聖徒たちに対する天的な命の供給の務めにおいて、彼が神の行政を執行することにおいて、彼と一になることです。
- C. わたしたちの祈りを通して、かしらであるキリストは道が与えられ、彼のからだを通して彼の行政を執行します—— 1:18. 2:19. 3:1-2 :
1. かしらはとりなし、供給し、行政を執行することによって天で働いています。わたしたち、からだは地上で働いて、キリストの天の務めに応答し、彼が行なっていることを反映しています——ヘブル 2:17. 4:14. 7:26. 8:1-2. 啓 5:6。
 2. わたしたちは祈るとき、天の大使であり、地上で神の王国を拡張しています——コロサイ 1:9, 12-13. 4:11-12。
- D. わたしたちは上にあるものを求め、キリストと一つの命と一つの生活を持つなら、わたしたちの主人の事業で完全に占有されます—— 3:1-4, 17 :
1. わたしたちの心は天で彼と共にあり、彼は天で諸召会のためにとりなし、聖徒たちを供給し、神の行政を執行しています。
 2. わたしたちは天の務めにおいて主と一であり、主の心と一である心を持つことを渴望すべきであり、彼の祭司職、務め、行政において彼と一であることを切望すべきです。
- E. 回復は「主の」回復であるために、彼の指示の下になければなりません——啓 5:6. エペソ 1:19-23 :
1. 天のキリストと地上のわたしたちの間に、神聖な伝達、天的な電流があります—— 22 節。
 2. わたしたちは絶えず神聖な伝達を受け、天からの供給を注入され、天のキリストとわたしたちの間の往来を経験するなら、キリストのとりなし、供給し、神の行政を執行することに応答します。

務めの書物からの抜粋 :

わたしたち自身を神の中へと祈り込む

ルカによる福音書第 11 章 1 節から 13 節には、祈りについての人・救い主の教えがあります。わたしたちはこの区分を何度も注意深く読むなら、祈りとは、わたしたちが自分自身を神の中へと祈り込むのを意味することを見るでしょう。ある人はこれを聞くとき、こう言うかもしれません、「わたしたちは、主イエスが彼の教えの中で立てられた祈りの模範の中に、そのような点を見いだすことはできません。祈るとは自分自身を神の中へと祈り込むことであると、どうしてあなたは言うことができるのですか?」。一見して、この事柄は第 11 章 1 節から 13 節に見いだせません。実は、これらの節で、祈るとは、自分自身を神の中へと祈り込むことであることを見ます。

1 節は言います、「さて、イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人が彼に言った、『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください』」。主が何のために祈っておられたのか、わたしたちはわかりません。弟子たちは、彼が祈っておられるのを見たとき、彼に祈ることを教えていただきたいかったです。そこで主は続けて言われました、「あなたがたは祈る時、こう言いなさい、『父よ、あなたの御名が聖とされますように。あなたの王国が来ますように。わたしたちの日

ごとのパンを、毎日、与えてください。わたしたちが自分に負債のあるすべての者を赦したように、わたしたちの罪を赦してください。わたしたちを試みに遭わせないでください』(2-4 節)。わたしは多くの時間を費やして、この簡潔な言葉を考えてきました。わたしの結論は、このように繰り返し祈るなら、その結果は、わたしたちが自分自身を神の中へと祈り込むことになるということです。言い換えれば、この祈りの結果は、わたしたちが自分自身を神の中に見いだすことです。

これらの節の主の教えにしたがって祈るなら、わたしたちは神の中の人となるでしょう。わたしはあなたがたがこう祈るように勧めます、「父よ、あなたの御名が聖とされますように。あなたの王国が来ますように」。これを何度も祈るなら、あなたは自分が神の中にいることを見いだすでしょう。これがわたしの理解、わたしの経験です。わたしは経験から、主の教えにしたがって祈るとは、自分自身を神の中へと祈り込むことであると、証しすることができます。

いったん自分自身を神の中へと祈り込むと、神の中にいるわたしたちは何をすべきでしょうか？ わたしたちはただ、彼と彼の豊富をわたしたちの中へと受け入れるだけです。墮落した人として、わたしたちは完全に神の外におり、彼の豊富と何の関係もありませんでした。ですから、わたしたちは神の豊富を享受することができませんでした。わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込み、彼の中にある者として、彼と彼の豊富を受け入れる必要があります。

わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込んで、彼と彼の豊富を受ける必要があることについて聞くとき、ある人たちは言うかもしれません、「わたしたちは救われる前、神の中にいませんでした。しかし今やわたしたちは神の子供たちです」。そうです。信者として、わたしたちは神の子供たちです。それにもかかわらず、わたしたちの経験では、わたしたちはしばしば神の中にいないという事実を承認しなければなりません。わたしたちは神の中に住んでいません。わたしたちは彼の中にとどまっていません。例えば、床につく前、ある兄弟は妻に短気を起こします。彼は次の朝、起きるとき、神の外側で起きます。彼はどうすべきでしょうか？ 彼は自分自身を神の中へと祈り込むべきです。

しかしながら、仮にその兄弟がこのように祈るとします、「父よ、あなたは公正で公平です。あなたはわたしの妻が間違っていることをご存じです。わたしを弁明してください。あなたに求めます」。その兄弟はこのように祈れば祈るほど、ますます経験の中で神から遠ざかるでしょう。彼は祈る必要があります、「おお、父よ、御名が聖とされますように。あなたの王国が来ますように。父よ、この日のパンをわたしに与えてください。またわたしが妻を赦すように、わたしを赦してください。父よ、わたしを試みに遭わせないでください」。その兄弟がこのように祈れば祈るほど、ますます自分自身を神の中に見いだすでしょう。これは、祈ることが、わたしたち自身を神の中へと祈り込むことであるという点を例証します。

わたしたちはしばしば神からそらされます。わたしたちは新聞の広告によってさえ、彼からそらされるかもしれません。わたしたちは容易に神からそらされるので、毎朝、彼と共に時間を費やして、わたしたち自身を彼の中へと祈り込むべきです。自分の欠点について、こと細かく祈る必要はありません。「父よ、わたしを赦してください」と言うだけで十分です。詳細にわたる必要はありません。「父よ、わたしが他の人を赦すように、わた

しを赦してください」という祈りは包括的です。あなたはこのように祈れば祈るほど、自分自身を神の中へと祈り込むことを、ますます認識するでしょう。そして、あなたは神の中で命の供給を受けるでしょう。(ルカによる福音書ライフスタディ、メッセージ 27)

キリストの天の務めに応答する

わたしたちは、キリストの天の務めに応答する者となる必要があります。何世紀にもわたって、キリストは天における彼の務めに応答する人々を得ようとしてきましたが、完全には成功しませんでした。主のあわれみと恵みによって、今日、地上に、キリストの天の務めに応答する、主の回復における一組の人がいます。わたしたちはこの務めの中で主と一であると、主に告げる者となりましょう。日夜、わたしたちは、すべてのものの上におられるキリストに応答する必要があります。わたしは主に応答し、「アーメン、主よ」と言うとき、キリストがとりなし供給しており、彼の豊富をわたしの中へと伝達し、神の要素をわたしに注入しておられるという確信が、内側深くにあります。この伝達と注入のゆえに、わたしは満たされ、主の権益のためにかき立てられます。時には、わたしは喜びで我を忘れ、何をしているのかほとんどわからないほどです。これが、上にあるものを求めることの意味するものです。

わたしたちが上にあるものを求め、上にあるものの中でキリストと一であるなら、宗教、哲学、道徳の教えを顧みないでしょう。それらはすべて、この世の初歩的教えです。そうではなく、わたしたちはキリストのからだのためのとりなし、また彼の豊富を彼の肢体の中へと伝達することだけを顧みます。わたしには、地方召会の多くの聖徒たちが、キリストの豊富の注入を経験しているという完全な確信があります。わたしたちはそのような注入を持っているので、倫理、文化、宗教は必要ありません。わたしたちはただ、キリストの天の務めにおいて彼と一になることをますます必要とします。彼のとりなしのゆえに、彼の務めのゆえに、天と地の交通のゆえに、彼を賛美します！

わたしたちは、天におられるキリストはとても忙しいという事実に印象づけられる必要があります。彼は全世界のどれほど多くの地方召会を顧みておられるか、考えてみてください。キリストの天の務めはすべて、からだを建造し、彼の花嫁を形成するという目標のためです。しかしながら、キリストの天の務めは、わたしたちの応答を要求します。わたしたちは地上で、その天の務めの反映となる必要があります。わたしたちは上にあるものを求めるとき、主の天の務めに応答し、それを反映します。わたしたちの経験はこれを証しします。わたしたちが祈りにおいて、重要でない事柄を忘れて、上にあるものを顧みようとするなら、天においてわたしたちとキリストとの間の交通を意識するようになります。わたしたちは、彼とわたしたちとの間で滞ることなく流れる潮流を感じます。このような祈りによって、神聖な豊富がわたしたちの中へと注入されます。これは、わたしたちが他の人と一になり、すべての人に対して正しくなることができますようにします。これはまた、新しい人の更新という結果になります。天の伝達と注入を通して、新しい人が実際的に存在するようになります。ですから、新しい人は、教えによって生み出されるのではなく、新しい人は、天の交通、往来、注入によって生み出されます。(コロサイ人への手紙ライフスタディ (3)、第 61 編)

祈りと戦い

コロサイ人への手紙第4章2節のパウロの言葉によれば、わたしたちがうまずたゆまずいることを要求するのは祈りです。わたしたちがうまずたゆまず祈る必要があるのは、祈りが戦い、争いと関係があるからです。二者、すなわち神とサタンが互いに敵対しています。「サタン」という名の意味は内敵です。サタンは外側の敵であり、また内側の敵です。一方で、彼は外敵であって神を打ち破ろうとします。もう一方で、彼は神の領域の内側の内敵であって、打撃を与えようとしています。内敵として、サタンは神の領域、神の王国の内側から神に反対します。こういうわけで、聖書ははっきりと、今日でさえサタンは神の御座の所に近づいていることを示しています。ヨブ記で、サタンが神の御座の前に立ち、神の御前で人を訴えることができるのを見ます（ヨブ 1:6-12）。なぜ神が彼の敵にそのような自由を許されたのか、理解することは難しいのです。啓示録第12章10節によれば、サタンは昼も夜もわたしたちを訴えています。

戦いが宇宙において神とサタンとの間で激烈であるのですが、もう一つの当事者が関係しています。この第三者は神の選ばれ贖われた民、実際に戦いの結果を決定する者から成っています。もしわたしたちがサタンの側に付くなら、たとえ神は全能であっても、破れます。無限で大能の創造主として、神はご自身を低くして彼の被造物の一つと戦うことをされません。こうして、もう一つの神の被造物、すなわち人が、サタンと戦う必要があるのです。とても実際的な意味で、神はわたしたちを必要としておられます。わたしたちがなければ、神にはサタンとの戦いを遂行する方法はありません。神は創造主としての彼の地位を維持しなければなりません。こういうわけで、彼はわたしたちが実際の戦闘の働きを遂行することを必要とされるのです。

神の側でサタンと戦うために、わたしたちはうまずたゆまず祈る必要があります。このようにうまずたゆまずいる必要があるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです。祈ることは、墮落した宇宙での流れ、潮流に抵抗することです。うまずたゆまず祈ることは、流れをさかのぼって舟をこぐようなものです。もしあなたがうまずたゆまずいることがないなら、流れによって下流に運ばれるでしょう。疑いもなく、こぐことでも祈ることでも、このようにうまずたゆまずいることは、多くのエネルギーを必要とします。全宇宙はサタンの影響の下にあり、神のみこころと相対しています。ですから、この世には神のみこころに相対する強力な潮流があるのです。神の側に立つ者として、わたしたちは、全宇宙がわたしたちに敵対しており、特に、わたしたちの祈りに敵対していることを見いだします。

わたしたちが日ごとの祈りに関して持つ経験の多くは、サタンが可能な限りわたしたちの祈りに反対していることを証明します。例えば、あなたが祈りのとても重要な点に来るとき、電話が鳴るかもしれません。あなたは自分自身をその霊の中へと祈り込み、天に触れています。すると、まさにその瞬間、電話が鳴るかもしれません。あなたが電話に出ると、それはある人が間違ってダイヤルしたことを知ります。これはあなたを激怒させ、これによってあなたの祈る霊はひどく打撃を受けるかもしれません。わたしたちはまた祈ろうとするとき、子供によって、戸の外の訪問客によって、家のペットによって、妨害されるかもしれません。多くのものがわたしたちの祈りに敵対するので、わたしたちは確かにうまずたゆまず祈る必要があります。

祈りの益

うまずたゆまず祈ることには多くの益があります。わたしたちは祈りによって、思いを上にあるものに置きます。事実、祈りは、思いを天にあるものに置く唯一の道です。わたしたちが祈ることによって思いを上にあるものに置くとき、さ細な事柄のために祈りません。そうではなく、わたしたちの祈りはキリストの天のとりなし、務め、行政で占有されます。キリストが世界中の諸召会のためにとりなしておられるので、わたしたちも諸召会のために祈ります。主に、わたしたちの生活におけるすべての小さな事柄を顧みていただきましょう。わたしたちの責任は、まず神の王国と神の義を求めることです。御父はわたしたちの必要を知っているので、わたしたちを顧み、わたしたちの必要を満たしてください。

わたしたちは祈りの時間に思いを上にあるものに置くとき、天におけるキリストの務めの反映となります。わたしたちの祈りを通して、キリスト、かしらは道が与えられて、彼のからだを通して彼の行政を執行されます。わたしたちは祈るとき、天の大使であり、地上で神の王国を拡張しています。しかしながら、わたしたちはうわさ話をしているとき、全く天の大使ではありません。わたしたちは祈るときはじめて、実際的に天的王国の地上での大使となります。

わたしたちは祈るとき、至聖所の中へと入り、恵みの御座に近づきます。ヘブル人への手紙第4章16節は言います、「ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」。祈りは恵みの御座に進み出る道です。わたしたちは恵みの御座に進み出て、あわれみと、時機を得た助けとなる恵みを受けます。わたしたちが祈り、恵みの御座に近づくと、あわれみと恵みは川となってわたしたちの中を流れ、わたしたちを供給します。これは何という褒賞でしょう！ 祈りの中で恵みの流れを受けることは、実はわたしたちの祈りが答えられることよりはるかに重要なのです。わたしたちの祈りが答えられるかどうかは、二次的なことです。主要な事は、恵みが川のように御座からわたしたちの存在の中へと流れ込むことです。

この恵みの川を受けることは、天的な電流をもってわたしたちの霊的な電池を充電することです。天的な電流、神聖な電気とは、御座からわたしたちの中へと流れ込む恵みとしての三一の神です。これがもたらす供給と享受は言い尽くすことができません。

今日のクリスチャンが弱いのは、彼らの霊的な電池が充電されていないからです。彼らは祈りに欠けているので、天的な伝達に欠けています。わたしたちは一日の中で何度も、神聖な電流をもって充電される必要があります。これは確かに、うまずたゆまず祈ることの褒賞です。

祈りのもう一つの益は、主との交わりと関係があります。わたしたちはみな主の臨在と油塗りを愛し、みな彼との交わりを持つことを愛します。しかし、どのようにして主の臨在を享受し、また彼との交わりを持つことができるのでしょうか？ 唯一の道は祈ることです。わたしたちは祈るとき、主との交わりの中へと入り、わたしたちが真に彼と一つ霊であり、彼が実はわたしたちと一つ霊であるという事実の感覚を得るようになります。わたしたちは祈れば祈るほど、ますます主と一であることを経験し、ますます彼の臨在を享受

し、彼との交わりを持ちます。何というすばらしい褒賞でしょう！

正常な祈りの生活を持つことは、初めのうちは常に難しいのです。しかし、あなたがこれを長い期間、実行するなら、それはますます容易になります。なぜなら、あなたは祈りの褒賞を認識するからです。

すでに見てきたように、わたしたちは正常なクリスチャンの歩みのために、思いを上にあるものに置き、新しい人の更新を持ち、キリストの平安にわたしたちを裁定させ、キリストの言葉をわたしたちに住ませる必要があります。しかしながら、この四つの事柄はすべて、祈りを必要とします。それらを実行し、それらを経験するためには、祈る必要があります。祈りは、わたしたちをこの四つの事柄の実際の中へともたらし、わたしたちをこの実際の中に保ちます。(コロサイ人への手紙ライフスタディ (3)、第 65 編)